

第5回生命の海科学館見直し検討委員会記録

日時	平成20年12月17日(水)午後2時00分～午後4時05分
場所	情報ネットワークセンター メディアホール
議題	(1) 生命の海科学館見直し検討委員会検討結果報告書(案)について(協議) (2) その他
出席委員	(9名) 伴 捷文(議会代表者:蒲郡市議会議員) 松本 昌成(議会代表者:蒲郡市議会議員) 小沢 慎治(情報技術分野市内有識者:愛知工科大学教授) 遠山 憲章(観光分野市内有識者:蒲郡市観光協会専務理事) 伊奈 義兼(地元産業・経済分野市内有識者:蒲郡商工会議所副会頭) 岡本 俊一(市民代表者:公募市民) 長田 広子(市民代表者:女性代表) 牧 信男(市民代表者:地域代表) 小笠原久和(行政代表者:生命の海科学館館長)
欠席委員	(3名) 鈴木 英文(教育分野市内有識者:蒲郡市教育委員長) 永田 武満(市民代表者:公募市民) 小林 憲三(行政代表者:企画部長)
事務局出席者	4名
一般傍聴	6名

議事

[ 開会 午後 2 時 0 0 分 ]

開会

議題 1 施設の目的・使命・役割について（協議）

委員長

議題 1、生命の海科学館見直し検討委員会検討結果報告書（案）についてをご協議いただきたい。報告書案は、事前に委員各位へお配りしてあるのご精読いただいていると思うが、最初に事務局に朗読をお願いします。

〔報告書（案）を事務局が朗読〕

委員長

それでは、報告書案の修正すべき点についてご意見をいただくが、その前に、この報告書案の作成に当たり前提としたことについて説明したい。

この報告書案は前回までの委員各位の意見を大枠で分類し、共通意見をまとめたものである。市長へは今までの会議録と報告書をあわせて提出し、報告書は会議録と一体のものとして扱っていただきたいと考えている。報告書にすべての意見が網羅されているわけではないが、そうした意味合いで報告書を作成したのでご理解いただきたい。

これからご意見を伺うが、事前をお願いしてあるように変更部分は軽易なものを除き、文書で具体的にお示しいただきたい。

まず、欠席の方から修正意見があれば事務局から報告をお願いしたい。

事務局

本日、3名が欠席であるが、修正意見の連絡はいただけていない。

委員長

本日出席の委員から修正案の文書を1枚いただいたので、変更点の説明をお願いしたい。

委員

3ページの1番を後の文章と対応させるため、生命の海科学館を「科学教育普及施設」、「理科教育施設」、および「生涯学習・地域コミュニティの核となる施設」と順番を入れ替える。

委員長

3 ページの 1 番の項目の順序を入れ替えるということによろしいか。

委員

そのとおり。

事務局

1 を「生命の海科学館を「科学教育普及施設」、「理科教育施設」、および「生涯学習・地域コミュニティの核となる施設」として活用すべきである。」というように変えるということによいか。

委員

そういうことである。

事務局

今、委員からいただいた修正案を見え消しで報告書案に手書きしたので、協議しやすいようにお配りしたい。

委員長

配っている間に委員の皆さんにお聞きするが、修正点を 1 つ 1 つ確認していくという方法の進め方で良いか。

委員

事前に資料をいただいたので、本来なら文面で書いて説明するのがいいと思うが、全体を通して言いたいことがある。なかなか文書化することが難しい。

この報告書を見ると今後存続してさらにより良くするためにお金も使ってやっていこうという感じに取れる。10月以降、市況全体が財政的に厳しい状態にある中で、お金を使えば良くなることは分かるのだがそれが許されるのか。もともと赤字だから生命の海科学館はいけないのではないかという点で市民への説明責任があると思うのだが、その部分がなくなっている気がする。金融事情がどんどん悪化する中で科学館の充実はいかがなものかと思う。

委員長

今本当に財政が厳しいのはおっしゃる通りである。その文言については事務局と相談して入れさせてもらうということによろしいか。

委員

この委員会は今回で終わりとなるのか。

委員長

できれば終わりたいと考えている。市長への報告時期も含めて今回お話したい。

委員

今の委員長の話だともう一度修正案を話し合わないといけないのでは。

委員

今日の感じだと最終的にもう一度やらないといけない気がする。

委員長

大事なことであるので、皆さんがそうなら次回開催も必要となる。他の委員の方はどうか。

委員

私も文書を出していなくて申し訳ないが、この報告書は「生命の海科学館について」という報告書だが、7ページの改善後の運営体制というところで、高度情報化部分が含まれている。その間にある「相互連携」部分の詳細を知りたい。

今のご指摘もあるのだが、お金をかける部分と言っても高度情報化部門で必要があるからお金をかける部分もあるだろうし、科学館をよりよくするためにかける部分もあると思う。相互連携になっているため線引きがしにくい。

委員長

委員の言われたお金をかけるという部分であるが、これは必ずしもかけるということではなく、市長が判断することである。どのように改善していくかということで、決して今の市の財政からするとお金をかけているんなものを投入するということは積極的にはやれないのかなと思う。議員としての立場で個人的にはそう思う。事務局どうか。

事務局

委員のお尋ねの、7ページの上図の中の「相互連携」が生命の海科学館の中の機能として加わっているのではないかという指摘については、高度情報化部門というものがあり、それが生命の海科学館との間の相互連携を図るように書いてあるが、高度情報化部門というのは市のあらゆるセクションとの間で相互連携をしている。

生命の海科学館だけを取り出して図にしてあるので、分かりにくいかもしれないが、例えば、税務課がシステムを開発したり、福祉課が福祉システムを開発したり、行政のそういったシステム開発、情報部門に対してのあらゆるものと、各課横断的に情報化部門は連携を図りながら、行政サービスの高度化を図っていくということを意味している。

委員

それなら結構。

委員

立派な運営方法が書かれているので、これをこのとおりやっていけば成功していくのではと思う。存続ということで、あとがないので、次の結果が悪かったらということを踏まえて、取り扱う関係者の方、市の行政の立場の方にしっかりやっていただきたい。

委員

このようになったらすごく良いと思うが、お金がなくて話し合いが始まり、本当にできるのかと思う。これが家庭のことであったり、会社のことであったりしたら、できるだけお金をかけずに知恵とみんなの協力でやっていくが、市や国はおそらくこういう仕事をしたい人を募集して安く注文を出すだろうが、それでも高い。

今でも科学館の話をするに「来たくない、建物も壊してしまえばいい」という意見が多い。私は初めから子供達のために、市のために残したいと思っており、私個人は綺麗にしてほしいが、この中を弄ることは反発されてしまう。機会があればなぜこうなったのか、裁判のときは状況が違うということを市民に知っていただかないと、もしかしたら綺麗になっても私達が望んでいるほどみんなが歓迎してくれないのではないかなと心配である。

私がこの委員会に参加していることを言っていないくても、科学館に賛成のようなことを言うと、中にいる方や、私まで悪者みたいにされてしまい、説明しようとしても聞いてもらえない。それをまずなくしたほうが良いと思う。それで、科学館をみんなに好きになってももらえるように努力していることが伝わるといいと思う。お金があるのかは心配だが、このとおりになるととても良いと思う。

委員長

最初の意見に戻り、進めていきたいと思う。また後で、皆様のご意見を聞いていきたい。

委員

この報告書を読んで、70、80%は書かれており良いと思う。その上でこれを直していただければ良いと思う。

委員

ここで、委員の意見を聞いて修正し、皆さんがOKであれば、まとめていくということだと思うが、先程あったように「これで終わりですか」という意見や、一部追加の意見があったので、もう一度聞きながらここにプラスできるかどうかも含めて検討していかない

といけないのではないか。今の委員の修正案は全体は良しとした合意の中での意見である。全体がこの方向で良いという合意をとった上で個々に入っていないといけないのでは。

委員長

委員の言われることはよく分かる。そういう意味で皆さんにお聞きしたが、ご意見があれば予め提出していただくようお願いしており、書面で提出していただいたのは、この意見だけであるので、とりあえず進めていき、後で皆さんに意見を伺っていきたいと思う。

委員

少し中途半端な感じがしたので、もう少しお聞きしたほうが良いと思ったのだが。

委員長

私もそう思ったので今伺ったということである。

委員から出た1番の部分に関しては、それでよろしいか。今まわしたプリントが、提出された委員の意見を元に事務局に訂正してもらったものである。

委員

確認だが、「科学教育普及」と「理科教育」というのは違うといえば違うし、違いが分からないといえば分からないのだが、役割と使命を見ると対象が市民であるか、学校教育であるかということで分けてあるようだが、それが本質とすれば、もう少し何かそれを強調するような言葉があるのかなという気もする。

事務局

強調するというか、説明書きを設けるかということであるが、3ページの「1 役割及び使命について」に「学校教育と連携した理科教育施設、および市民のための科学教育普及施設」というのがある。ここを読んで委員も推測していただいたが、この説明が不足しているなら事務局としても修正させていただく。学校教育では「科学」という言い方ではなく「理科」と言うため、そういう意味で「理科教育」という言葉を選んでいる。逆に言えば、今までの委員のご意見の中で、学校教育との連携が大事だという意見が多かったので、あえてここでは科学教育普及というものから、学校教育部分の理科教育施設というものを強調して出したということである。

委員

学校の先生などの外の力を科学館に傾けてもらうという意味で良いか。

事務局

そういうことである。

委員長

では2番目の説明を委員からお願いしたい。

委員

(1) 科学館の役割及び使命の中で、「海をメインテーマとした科学教育普及施設」となっているが、「理科教育施設」というのは、最後に少し言葉が出てくるだけなので「科学教育施設」を最初に持ってきたほうが良いのではと思ったということである。

それから、3ページの最初の1、2、3、4だが、後の運営体制を対応させて考えると、少し学芸員のことが弱くなるが、2と3は一緒にしたほうが良いと思う。そして3として、科学館の運営について中長期的な事業計画の作成、4として評価方法の検討を行うという形にしたほうが後の文面に続いていくので良いかと思う。

委員長

委員の方から説明があった。ご意見はないか。事務局はどうか。

事務局

委員の意見についてということではなく、報告書案の構成のことについてだけ、説明させていただきたい。3ページのところで、まず大きな単元で「1 役割及び使命」となっている。次に小さな単元で「(1) 科学館の役割及び使命」「(2) 目標・行動指針」となっている。このように1、(1) といった作り方の問題にも関わっており、見にくかった点もあるのかもしれないが、この「(1) 科学館の役割及び使命」というものは、まさに「役割及び使命」を書き、その「役割及び使命」を実際に行動に移す、移し方を(2)で書いてある。だから(1)で書いてあることをもう一度(2)で重複して言っているといった面もある。

例えば(1)の中の「科学教育普及施設」というものを海をメインテーマにしてやっていく。それを実際に目標として行動に移すにはどうすればいいのかというものを、(2)の中で目標・行動指針として載せている。科学館は楽しくなければならない、それにはどうすればいいのかということで、そこで発見、驚き、感動といった、見て聞いただけではなく、触れるなどの体験型展示の意見も出ていたので、ここに記載している。

委員の言われるのは、前段での3つの役割が、学校教育と連携をした「理科教育施設」、それと市民に科学普及をする「科学教育普及」、それともうひとつは「生涯学習・コミュニティ」の3本柱であるので、これからすると、(1)の科学館の役割及び使命の中で、学校教育のことも入れたらどうかということだと思う。

しかし、報告書案は、「海をメインテーマ」としたところを目的として大きく捉えており、海をメインテーマとした科学教育普及施設の中に学校教育の理科教育施設も含まれて書いているということである。

1点、委員にお聞きしたいが、4ページの下に があるが、この 生涯学習及びコミュニティ活動施設としての活用というものも削除して、上に持っていった方がよいということか。

委員

そうだ。 と は、同じようなことが書いてあるようでスッキリしない、上へ持ってきたほうが、良いのかなと。

事務局

今 説明させていただいたように、(1)というものは、役割及び使命であって、(2)はその目標・行動指針である。これは並行して箇条書きしてあるものではなく、(1)を説明した上で、(2)では、それを行動に移すためにはどうすれば良いかといった内容で書かれている。そうすると については、別の表現にするにしても「生涯学習及びコミュニティ活動施設の活用」についての行動に移すべきものをここに入れないとこのフレームが崩れてしまうことになる。

委員

私もそうかなと思う。もう一度、同じことだが、市民のためのというのと、学校教育と連携するというのと、もうひとつは市民が自発的に集まるという3つの違う要素を、それぞれ 、 、 とされているということなので、(2)で対応したほうが、わかりやすいのかと思う。(1)に含めてしまうのはどうかと思う。つまり最初の 、 、 と合わせると、対象が違うから、実施するやり方も違うのではないかというのが私の意見である。

それと、もう1つ気がついたが、観光施設のこともあるので があるということか。

事務局

はい。

仮に(1)の中に、 というものを設ける。設け方としては、 の海をメインテーマとした科学教育普及施設の下の部分、下の部分というのは、4ページの上から数えて3行目の「また、」と書かれた以下の部分を としてここに持っていくという形ではどうか。

委員

「また、」以下をどこにもっていくのか。

事務局

として新たに設ける。それで、下から上にもってきている と はそのままにしておいて、新たに だけを設ける。

#### 委員長

ちょっと分かりづらい部分もあるが、そういうことでよろしいか。

字句の整理をしないと分かりづらいので、やはりもう一回委員会を、面倒でもやる方向とした方が良いのか、皆さんの意見をお尋ねしたい。

#### 委員

今、事務局からもあったように、委員が言われたものを、要は、(1)の科学館の役割及び使命の今、 になっているところを、 、 、 として、 に「学校教育と連携した」というものとする。 を に分離して三本立てにする。

ただ、(2)の方の目標・行動指針というのは、番号を一致させるという意見もあったが、そういう意味合いではなく、あくまで(1)の 、 、 を達成するための目標・行動指針として、観光のことも含めた までであるということで作られている。

私の考えでは、役割及び使命のところは三本立てにする。下の部分については、現状のまま、そのまま意味合いをもたせるということではないかというふうに思うがどうか。

#### 委員

それで結構。

#### 委員

私も賛成する。

#### 委員

行政側から私が言うのも何だが、これは今までの会議の皆さんの意見をまとめて要約した報告書の案だと私は理解している。そうすると、これがもし案だとするならば、あまりにも「理科教育」、「科学教育施設」、「生涯…」と教育施設としていくべきだということが強調されており、いわゆる観光蒲郡のキーポイントである「蒲郡の顔」としてのここの存在価値が抜けている。

私も館長の立場として確かに地域の子供たち、市民への普及は必要だと痛切に感じている。生命の海科学館の展示資料は、ご承知のとおり、世界的、全国的にも非常にレベルの高いものであって、当然、市内の方たちにもそれを教育普及施設として活用すべきであるが、あまりにもそれが前面に出てしまって、いわゆる観光蒲郡として、観光ポイントとしての役割を私は是非どこか一言でもいいから、この1、2、3、4の柱の中に入れていただきたい。

行政側から案を作っておいて言うのもおかしいが、何か抜けちゃっていると思う。あと、詳細の説明の方で若干謳っているが、太字のゴシックで書いてあるところを見ると、あっこれが要旨なのかとなってしまう、あくまでも4本の柱のごとく理解されがちである。実

際にはそうでないのだが、そうされがちである。

ご存知のとおり、この生命の海科学館は情報ネットワークセンターのショールームとして造られたわけである。ショールームの字のごとく「見せる場所」で、決していわゆるミュージアム、科学館、博物館としての機能をもった施設ではない。博物館法的にはここは学芸員を置く必要はない。けれども、普及としては専門の学芸員が必要ということだ。

具体的な例を言えば、一般の科学館、博物館は、近隣の豊橋の自然史博物館、あるいは蒲郡市の博物館でも、そういう生涯学習、教育の普及施設なればこそ、学芸員を置いているところは、当然、調査研究の作業スペースがある。それから収蔵庫、教育の体験学習とかそういう講座をする場所、それも設けなければいけない。残念ながら冒頭に言ったように、ここは情報ネットワークセンターのショールームとして設計、造られている。だからそういうスペースが全然ない。最近まで専門の学芸員として非常勤学芸員が1人いたが、彼女からも「これでは何もできない」といつも言われた。要するにスペースがない。

報告書の案で、私はあくまでも「案」として受け止めているが、体験学習、実験とか色々やる場所、じゃあここでやるならどこでやるのか。もし、新しい専門の学芸員が来たとしたらまたそういう問題が提起される。どこでやるのかと。新しく来た学芸員が、「私がその準備をする、実験をする場所はどこにあるのか」と。ここは、展示資料は一流だが収蔵品は何も持っていない。材料として使うものもない。で、どうしようかということになる。

だから、理科教育施設とすることは確かに良いことだが、当初に設立された目的を少しでも、いわゆる観光、蒲郡の顔としてここは非常にいい立地条件である。世界的にもレベルの高い、全国的にもどこの館にも持っていないものを展示している。それを是非蒲郡の観光客に見ていただきたい。そのことをこの柱の中のどこかで謳ってほしい。確かにこうあるべきだと思うが、蒲郡の観光ポイントを1つでも増やしたいという意味で柱に入れてほしい。

#### 委員長

委員の意見に同感である。4ページの のところに観光スポットとしての魅力アップという1行が入っているが、もう少し強調したらというご意見である。

#### 委員

役割および使命についての文章の中でその部分はきちんと入っており、その中の運用面の中で今後どういうふうに位置付けをしていくかということで、目標・行動指針の中にも入っていると思うが。

#### 事務局

3ページの「1役割及び使命」のところの「なお書き」のところに「なお、観光施設としては、本施設だけで集客を考えるのではなく、連携を図っていかなければならない」と

ある。これは、観光施設として軽んじて言っているのではなく、やはりこの施設がどういう施設であるのかということを考えるときに、「市民のための市民が利用する施設である」ということを第一条件とし、まずそこを無料にして、そこがうまく運営されていけば他の施設、他の市町村の施設の美術館であるとか、博物館であるとか、そういったものも多くは教育施設として運用しながら、良い施設であれば観光施設として必然的に利用されていくだろうということである。それとその施設単独ではやはり非常に難しい面がある。特にこの科学館の場合はそういった大規模な機能はなく連携が特に必要だということで、あえてこの大きい単元の1で観光施設について謳い、お断りをした上で目標・行動指針のところで、5番という単元で観光スポットとしての魅力アップというのを謳っているということである。

#### 委員長

今観光についての意見が出たが、どのように思われるか。書き方はこの程度かと思うが。

#### 委員

例えばここに利用者中心主義の追求というのがある。お客様第一主義とか、利用者中心主義の追求ということは当たり前であって、確かに良いことなのだが、これが何なのかが問題である。これをやろうとするとマーケティングしたり、満足度の調査をしたり、コンテンツを新しくしたり、お金をかければできるけれども、こういうことは当たり前であって、それをわざわざ書くというのはどうなのかなと思う。先ほどの質問の観光の件は、そういうふうに入れていただけるとありがたいなと思う。

#### 委員

すべての委員が100%OKする文書は難しいわけで、そういう意味では立ち上がりの中ですべての議事録、資料、こういうものをあわせた上で提出ということであり、文言の一字一字はキリがないので、そのへんはある程度妥協もいるのかなと思う。

ただ、1つだけ気になるのは、5ページのところの施設の配置で、上の1階のマルチメディア体験スペースの上段はとても良いと思うが、最後のところは1階を完璧に科学館にすると読める。これで良いのか。そうするとお金がいると思う。これはつくれと断定的に書いてあるように読めるが、それで皆さん良いのか。他の施設へ流用できるような余地を残したほうが良いのかなと思う。例えば東港の活用が出来たときに他に流用もできるような、ある程度柔軟なことにしておいても良いのかなと思う。

#### 委員

具体的に述べるのはいかがなものかということか。

#### 委員

1階を全部科学館にしましょうと読めてしまうので、こんな断定的な意見を出してしまうと、市に金を出しなさいと言っているような気がしてしまう。

委員

私は3階部分だけだと全く魅力がないというか、もう少し魅力を増すために、有効利用されていない1階部分を科学館としているんなものをとすることは必要と思うが。

委員

おっしゃることは分かるが、金がかかる。

事務局

「パソコンの撤去による空きスペース部分に科学館を拡張することにより」というところの意味の取り方で議論いただいているが、パソコンを取り除いて何か科学館の展示物を入れるということでない場合もこの文章は表している。要するに、1階部分に入ってもどこに科学館があるのか分からないという意見がたくさんあった。それはどうしてだろうかということ考えたときに、あそこにパソコンが並べてあるから科学館と分からない。パソコンを除いてしまえば珪化木、上部には恐竜、更に古代クジラというクジラの骨がある。パソコンさえ除いてしまえば科学館という見え方は増すのではないか、そういう意味合いも含めて文章をつくったものである。何かを置くという意味にも取れるが、置かない場合でも、とにかく入ったときに科学館が1階にもあって、そこからのフロアプラン、お客の流れをどのように考えるかということでこの表現にしたものである。

委員

情報ネットワークセンターの居場所を科学館に渡しなさいと書いてあると思えば良いのか。

事務局

1階のパソコン部分というのはセンター的な機能であるので、ある意味そうなる。

委員

今まで情報ネットワークセンター機能だったところを科学館の機能に変えようという、あるいは変えることもできるというふうに読める、科学館を拡張しようということか。

事務局

科学館のリーダーが施設長になる、この施設全体を管理する人になる。だからそういう面であればこの貸館業務についてもこの施設長が管理する。パソコン教室についても生涯学習という意味合いの中でそこを管理していただくということである。その中にコミュ

ニティ的な機能もあるし、生涯学習的な機能、市民が集うということについても施設長がここを管理するということである。

#### 委員長

これはあくまでも行政側というか、事務局側の考えが多いので、委員の皆さんがそれではまずいということであれば検討していかなければいけない問題だと思う。

#### 委員

実はこだわっているのは相互連携の部分が、情報ネットワークセンター主体でやるべき部分が多いのではないかと私は思っていて、そういう意味で、どちらがやっても行われればいいのだが、これだと例えばいわゆる科学館の展示のスペースが増えるということで、相互連携の中に書かれているようなところのスペースはなくなってしまうのではないかなという印象がある。

パソコンがあるために科学館に見えないという問題点はよく理解したが、全体のスペースは限られているので、情報ネットワークセンターがもっと前向きにやるべき場所に使う余地も残しておいた方がいいのではないかなと思う。文章だけを見ると、ただ単に科学館に譲るように読める。

#### 事務局

例えば相互連携の中にある教育及び学習支援では、一家に一台のパソコンが普及した今パソコンの無料スペースの必要性は低下しているという意見があった。利用状況や利用者層を見ても教育及び学習支援としてよりも私事通信利用が多く、この点からも疑問視するところがある。また、極端な話を言えば情報に携わる者に場所はいらないという面もある。パソコンさえあればネットワークは繋がっているのだからそれで業務は完了してしまう。施設が必要、要するに市民との間の関わりというのは、パソコン教室のような生涯学習的な、コミュニティ的な関わり合いの中でスペースが必要となり、その長が施設を管理するという意味でやっていった方がよいのではないかなということも含めて述べさせていただいている。

#### 委員

なんとなく分かった。要するにこれは、科学館が1階を管理する幅を拡張するというぐらいの意味で、下にまた科学館をつくるという意味ではないということか。

#### 事務局

つくるという意味ではない。

#### 委員

私は、ネーミングをこの際思い切って変えたらどうかと。生命（いのち）の海科学館と呼ぶ人もいるだろう、それから、生命（せいめい）の海科学館と呼ぶ人もいるだろう、あまりにも名前が固い。この際、思い切って名称を変えるということも必要ではないかなと思う。例えば、アクア・トト岐阜という淡水魚の水族館が岐阜にあるそうである。そういったネーミングを募集するとかして、もっと市民が入りやすいように、今の名前はあまりにも固すぎるのではないか。役所の名前のようなものを、子供、あるいは小学生、そのほか若い方でももっと楽しめるような名前にしてみたらどうか。それから料金もこの際、こうやって委員会があるのだから、700円は高いというようなことになれば、幾らぐらいがいいかそれを皆さんで考えて料金設定も決めていったらいいかと思う。

#### 委員長

今のご意見は、できれば前回の委員会でご意見を頂きたかった。もう文書をまとめている段階である。しかし、そういうご意見があるのならここで検討する余地もあるかと思う。

#### 事務局

8ページの中ほどに名称と料金については書いてあるが。

#### 委員長

今の内容は8ページの(2)に載っており、この検討委員会で具体的にどうするということまではいかないと思う。これはあくまでも要望書に載せて、今後また検討していただきたいということになるかと思う。

#### 委員

それともう1つ、中を覗けばパソコンが見えるだとか、クジラの骨があるという話が出たが、入口に芝生が生えていて一般の方はなかなかそこまでも近づけない。建物の外にも生命の海科学館をアピールしたらいいかなと思う。これはすごいぞというようなものをもっと外へ展示したらどうかと思う。

#### 事務局

この報告書は、「はじめに」のところにもあるように議事録も含めて報告書と考えているということであるので、市長に報告するに当たって委員長の方から市長の方に、議事録も必ず読んでいただくよう念を押して言っていたらと思う。この報告書案は、皆さんのご意見を少しでも多く取り入れながら、なるべく共通した意見を載せられるようにということで作られている。報告書はすべての議事録、事務局が作成した参考資料も含めて市長に報告させていただくということである。すべての意見を報告書としてまとめると報告書にならない、結局、議事録を市長に提出しても同じだということになってしまう。

委員長

こちらの意見の分類というところにも、ネーミングのことが書いてある。今の言われた建物の外のアピールというような意見もこの中になかったら、追加して載せておいてもらえれば。

委員

今までの議事録の中で外観部分の意見も載っている。

委員長

委員の意見分類表も一度確認していただいて、もし不足があれば足しておいていただければと思う。

委員

今までの議論の内容は、今、意見が出た部分を含めて、運営方法のところには私が入っていると思う。それで具体的に、じゃあどういふふうに見直すのかということが決まり、現実に運営するときにならなければ、料金設定も難しい、それからネーミングにしても難しい、中身がまだ固まっていないのにとこのところがあると思う。ここで意見として出ているということで集約されるのかなと理解している。

それから、先ほど出た特に芝生の部分、私も入りづらいなと思うが、それを含め、壁の板の部分の意見なども今までの議論の中で色々意見が出てきている。そういう部分まで全部入れるとすると、議事録を付けて出して終わりみたいな形になってしまう。それはこの中に集約されるということでまとめたということでもいいだろうと私は思っている。ここにまた1つ1つ入れていくと議事録に載っている意見を全部入れないといけないという話になってしまう。

委員

科学館を拡張するというのは、管理エリアとして拡張するという解釈で、これは了解した。

委員

少し話が戻ってしまうが、この科学館には説明がない。普通、科学館や博物館には何故この名称になったのか、何が展示されているのかなどの説明があるが、この科学館にはそれが無い。また、科学館の中に入ると随分暗くなっているので「何故暗いのかな。何があるのかな」と思った。その時、説明して下さった方に、「説明したら良いのでは」と伝えたら、「説明をしないのが良いんです」と答えられた。この暗さは宇宙の暗さを表現していて、それを体験していただくためにこのようになっているとのことだった。

その時に教えてもらったのだが、なぜ説明していないかということ、ここは情報ネットワ

ークセンターと科学館が同じ建物の中にある。科学館に何があるのか、何の説明があるのかを自分でパソコンを操作して見る、これがすごく大事だということである。今は10年も経ってしまったので、皆パソコンで何でもやるが、その頃はこうした設備が画期的だったらしく、それがここの特徴でもあると聞いた。1階の情報ネットワークセンターを無くすのかどうするのかということだが、あまり追いやり過ぎてしまうと、パソコンを利用している意味がわからなくなってしまう。当初こうした理由でこれをつくり、自分で検索をしてもらう形で科学館を運営しているという説明をどこかに書いておかななくては意味がなくなってしまう。1階が情報ネットワークセンターなのでそれを両方とも活かしながら運営しているということだが、1階の情報ネットワークセンターが全て無くなって科学館だけになってしまうと、反対にそれが邪魔になってしまい、取って付けたみたいになってしまうと思う。普通に説明すれば良いところを「いや10年前にはこうだったから」と説明が必要になってしまう。情報ネットワークセンターをきちんと活かしていただき、狭くても値打ちのある活かし方をしながら科学館も生きるようにしたら良いと思う。

委員長

やはり科学館だけでは問題があるということか。

委員

もったいないと思う。せっかくすごく考えて説明なしで皆さんに理解してもらおう、発見してもらおうという素晴らしい考えでつくったものが今は邪魔になってしまうというのがもったいない。情報ネットワークセンターの部分に役に立たなくなったから、時代が変わってしまったから無くしてしまうというのはもったいない。

委員

これから科学館がどうなるかわからないし、運営委員会でどうなるかわからないが、私の理解では、当然ここのスタートがIT併用であるので、これは活かすべきだと思う。委員が言われた、説明が足りないという部分は確かにそうかもしれないが、ここがどのような施設でどういった展示・機能を持っているかということは、1階のクジラのところでいくつかの説明がある。アナウンスで出るようになっている。

3階展示室の係員には、極力お客の少ない時には自分の方から進んで説明しなさいと指導しており、最近私に届く入館者の声は「非常に説明が親切で良い」という好評ばかりである。係員をマリンスタッフと称しているが、彼女たちにはそうした教育もしており、極力説明するようにという指導をしている。当然、不手際もあり、至らないと言われれば今後も考えていかななくてはいけないと思っている。

委員長

事務局、科学館の部分と情報ネットワークセンターの部分については、いろいろとご意

見があるので、報告書の中に入れられるところがあれば入れていただきたい。もし難しいようなら、意見の分類表の方に載せていただきたい。

#### 委員

あまり科学館を前面に出すことに弱腰になると何の意味でやっているのかわからない。この施設は最初から科学館だけで造ったものではないと聞いているが、科学館をある程度前面に打ち出していないとやはり魅力がなくなってしまう。1階部分から科学館という雰囲気をもたせ出して、フロアプランをお金をかけて練るのではなく、専門家の考えを聞き最小の投資で最大の効果をあげる方法を考えてもらうということである。あまり科学館を前面に出すことに弱腰になってしまうと、と私は心配である。

それから「市民」という言葉は出てくるが「子供」という言葉がどこにも出てこない。外からみえる方も、結構子供さんが中心になり、それに親が付いてくるという形になっているので、その点に少しふれてもらいたい。学校の先生方に聞いても、ここの施設に子供が今行きたがらないと聞いている。そういうこともあるので子供が行って楽しめる場所という発想もなくてはいけない。いろいろな意見を聞いて形だけをつくるのでは、実際にやってみたら誰も来なかったということになる。そういう点で、もう少し付け加えることがあるかなと、そういう気がする。

#### 委員長

2つ意見が出た。1つは「科学館を前面にしていけない」という意見。これについては、基本的にそういう方向の報告書になっている、これを強調したい委員の意見。そしてまた、「情報ネットワークセンターの部分も大事にしてほしい」という意見。

#### 委員

情報ネットワークセンターを否定するわけではない。他への転用もそれはそれで分かるのだが、あまり異質なものを1階に持ってくると3階の部分が死んでしまうかなと私は思う。

#### 委員長

委員長として申し上げたいのは、あくまでもこれは「生命の海科学館」の見直し検討委員会である。その点を皆さんにご理解していただきたいと思う。「子供」については以前、委員からのレポートの中で、「子供を育む云々」というのを目にしたことがあったと思うが、どうか。

#### 委員

違う、出てこない。

委員長

この報告書の中には子供の教育のことについては。

事務局

学校関連には小中高とあるが、「子供」という文字は出ていない。議事録の中には「子供」がたくさん出ている。報告書の中に言葉を入れたいということだと思うが、4ページの(2)の「役割及び使命を達成するための目標・行動指針」の中に「楽しんで科学する場の提供」とあり、「科学を通して得られる発見、驚き、感動、共感などを大切にしたい誰もが楽しみながら科学する場を目指す」とある。「誰もが」というところに、「大人も子供も」と入れるのか、「誰もが」というふうに入れるのかの違いだけだと思う。大人だけという表現ではなく、子供も大人も「誰もが」ということでご理解いただきたい。

委員

「理科」という表現も子供を意味している。

事務局

逆に「子供」と入れてしまうと、大人のための科学館ではないのか、という異議も出てくることになる。

委員

先ほど施設配置について異議を唱えたが、その点については理解をした。トータルとしてこの報告書に議事録を加えるということで、まずまずよくできていると思う。できれば今日の議事録をつけることで、この報告書案は了解してもいいのかなと思う。

委員長

事務局、今日の議事録はどうなるのか。

事務局

今日も含めて議事録は1回目から全部つける。資料、お配りしている分類表も全てつける。本日の意見も必要であれば分類表に追加することも問題ない。

委員長

経営の改善・赤字の削減をしていかななくてはいけないのではないかという指摘があったが、これは報告書の中で、どのような形で出ているのか。

事務局

報告書の「はじめに」のところで「利用者数が減少傾向にあり、市の厳しい財政状況の

中で」とあり、最後の評価のところで、「財政的な面から現状の科学館経営を指摘する意見がある一方で、入場人員や収益面の指標だけでは、公共的な文化施設の価値を正しく評価できないとの指摘もあった」と、ここではどちらかに偏るのではなく、両面が書いてある。財政的な面も当然重要なことだし、科学館という公共の文化施設を評価するに当たっては、それだけでは評価できない。それも含めたバランスのとれた総合評価の必要性があるということを書いてある。

#### 委員長

確かにこの見直し検討委員会を立ち上げたのは、赤字をどうしたらいいかということが1つの大きな問題点だが、このくらいの表現でよろしいか。

#### 委員

流れとしては良いが、評価のところで、「新たな運営体制の下で施設運営がスタートしてから3年経過を目途に評価委員会を設置」と書いてあるが、この委員会を解散し、また委員会をつくることになっている。今後のための評価基準をきちんと作成したほうが良いと思う。専門要員を入れたりするなどお金をかけないと見直しできない気がする。また3年経つともっと赤字になると思う。したがって、この評価の最後のところに、開館当初に作成したように、入場者数が何人で、収入がこれくらいという目標をつくって、3年後に評価するというような3年間の事業計画を作成して入れるべきだと思う。

10月に観光交流ウィークがあったが、科学館の入場者数を見ると、前年から大幅に減っている。この委員会を開催している間も減少が続いていくのではと思う。次の運営委員会のときもまた減少し、ということでは問題だと思うので、存続するための事業計画、数値目標を具体的に作成し、次に渡していくべきだと思う。

#### 委員長

委員の言われる経営改善については、私も当初からそういう考えを持っていた。しかし、委員の皆さんのいろいろな評価、教育的な見地から見ると数値だけではない、評価が難しいという意見があった。報告書の中で、その部分についてこれで良いかということについては。

#### 事務局

9ページにあるように、「事業の評価は、科学館の役割・使命が決定された上でどのような評価方法が最も適しているか検討されるべきものと判断している。その施設の目的によって評価の方法が変わってくるからである」ということになるのではないかと。要するに、教育施設にするのか、何の施設にするのかということ、この報告書は市長に提出するが、市長がどのように判断するかは分からない。検討委員会の報告書としては、検討委員会の色合い、色付けが決まった段階で、それに適した評価をしてくださいとここでは言ってい

る。これを受けて3年後に、市長が決定した色合いの付いた施設に基づいてそれがなされているかということ、新たな評価、報告後の実施確認をしていくということである。先程謳った、理科教育施設、科学教育普及施設、生涯学習・地域コミュニティの核となる施設という3本柱があるが、ここで実施計画を作成しても、市長の判断は分からないので、ここでは役割・ミッション、実施するにあたっての運営体制、方法を市長に報告するという形になると思う。また、市長の判断を聞いて新しい方向性がしっかり決まってから、実施計画を作成し運営していく。そして最終的なチェックは、そうした新たな事業がスタートしてから3年後、いろいろな分野の方に新たに評価をしていただくという形である。

委員長

もう少しきちんとした形で経営改革を述べたほうが良いのではとも思うが、評価についてはそのようなことということである。かなり議論を尽くしてきたが、まだご意見があれば。

委員

結局、これで終わりとなるのか。

委員長

確認をとりたいと思う。今回の報告書を私どものほうで取りまとめ、今年度中に市長に報告書を提出するような段取りで進めてきた。しかし、今日もたくさんのご意見をいただき、もう一回行うのかとの質問もいただいたが、意見交換の中で「良くまとまっておりこれで良いのでは」という意見もあった。ここで、もう一回委員会を開催したほうがいいのか、これで最終報告書を作成し、委員長の責任において議事録を作成し確認していただく形で良いかまとめたいと思う。

委員

今回やってきた中で意見はほぼ出尽くしており、具体的にどうするかはここで決めるのは難しい。今まとめた中で提言していけば良いと思う。

8ページの運営方法の1番上のところにもあるが、「市長の責任の下で、特にミュージアム経営の専門家などの意見等を参考に今後どうするか考えていただく」ということである。例えば1階部分を含めてどうするのかなど、具体的な進め方はそこでの議論になるかと思う。そういうことでこの報告書を集約していけば良いと思う。

委員長

これで最終回ということでもまとめさせていただいてよろしいか。

委員

今日の分は、手直しして送っていただけるのか。  
私も80%くらいは良いかなと思っているので、そうしていただければ良いかなと思っている。

委員長

貴重なご意見をたくさん頂き感謝している。

ただいまご指摘いただいた箇所を修正したもので、本委員会の報告書とさせていただきますようお願いいたします。

ご異議がなければ拍手でご承認をお願いしたい。

〔拍手承認〕

議題2 その他

委員長

それでは、ご承認いただいたので、議題の2、その他を議題とさせていただきたい。

市長への報告書の提出について、事務局のほうから説明をお願いしたい。

事務局

〔市長への報告日の日程調整：出席可能な全委員で12月24日に報告〕

〔修正した報告書、第5回の会議録は事務局が委員へ事前に届け確認をお願いする〕

委員長

皆様のご協力により、報告書を作成し、市長へ報告できるに至り心から御礼申し上げます。

この検討委員会では「存続する」という結果になったのだから、改善すべきは改善し、「存続して良かったな」という方向に努力させていただくと同時に、皆様の今後のご協力をよろしくお願いしたい。

[閉会 午後4時05分]

( 委員から提出された修正案の内容 )

#### 検討結果報告書についての変更点

3 ページ 1 , 生命の海科学館を以下「科学教育普及施設」、「理科教育施設」、および「生涯学習・地域コミュニティの核となる施設」として順番を入れ替える。

3 ページ 1 , 2 , 3 , 4 で、2 , と3を一緒にして2とする。

2 生命の海科学館と情報ネットワークセンターの機能を分離し、科学館に独立性を持たせ施設運営を行わせることが必要である。また、魅力のある科学館とするため専門の学芸員を配置すべきである。

3 ページ ( 1 ) 科学館の役割及び使命の 、 で  
、 、を以下のように\_\_を追加して、それぞれ説明する。

海をメインテーマとした科学教育普及施設  
学校教育との連携を通じた「理科教育施設」  
生涯学習及びコミュニティ活動施設

4 ページ

役割及び使命を達成するための目標・行動指針の 、 を削除 、 、 とする。

の観光スポットとしての魅力アップは\_\_とする。

、は上記\_\_の学校教育に、 は\_\_に入れる。